Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 18第47号
2019年（平成31年） 3月15日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電話 （03）3534-7411（代）
FAX （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

2/28~3/6のNYMEX・WTIは、55.80～57.22ドルの範囲で推移した。

3月7日は、OPEC主導の協調減産による需給均衡への期待感に加え、ベネズエラ国政石油会社（PDVSA）のフォースマジュール宣言、米国の対イラン経済制裁の適用除外国への今後の原油輸入の削減圧力の報道等から、3日ぶりに反発した。ただ、ドル高に伴う割高感、欧米株式の下落等が上値を抑えた。4月限終値は前日比0.44ドル高の56.66ドル。

週末8日は、2月の中国貿易統計の輸出不振、米国雇用統計の増加の鈍化の報告など、世界経済減速懸念から、反落した。ただ、週末のポジション調整の買いやベーカーヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数は834基（前週比9基減）と3週連続減少で10ヶ月ぶりの低水準との報道もあり、下げ幅は限られた。4月限終値は前日比0.59ドル安の56.07ドル。

週明け11日は、サウジのファリハ・エネルギー相が4月のOPEC会合で協調減産を見直す可能性は少ないと発言、また、サウジの3・4月産油量の抑制方針から、反発した。ただ、この日、IEAは中期見通しで、米国で第二のシェール革命が起こっており、2021年には純輸出国になると報告、上値を抑えた。4月限終値は前週末比0.72ドル高の56.79ドル。

12日は、サウジアラムコ関係者が4月の同国輸出量を700万b/d未満に、産油量を1000万b/dを大きく下回る水準に抑制する方針を伝えたこと、ベネズエラでは停電による出荷停止が続いていることから、小幅続伸した。4月限終値は前日比0.08ドル高の56.87ドル。

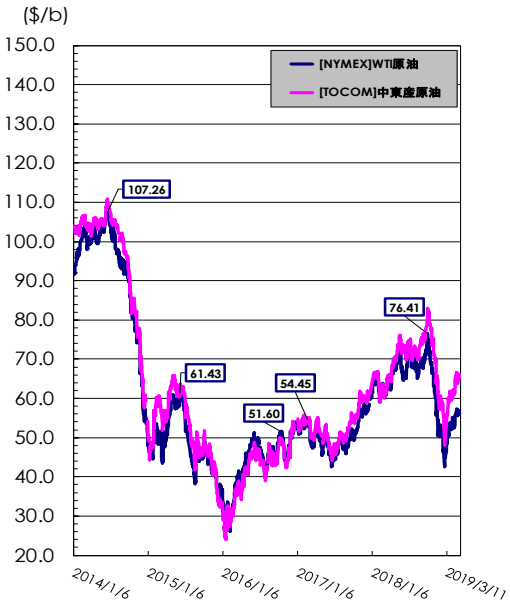
13日は、EIA在庫週報で、米国原油在庫が前週比390万バレル減と市場予想に反する取り崩し、ガソリン在庫も460万バレル減と市場予想を大きく上回る取り崩しであったことから大幅に続伸した。4月限終値は前日比1.39ドル高の58.26ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（4月渡し）は2月28日～3月6日の間65.20～66.60ドルの範囲で推移した。3月7日66.40ドル、8日66.30ドル、11日66.30ドル、12日66.90ドル、13日67.00ドルで推移した。

為替は2月28日～3月6日の間110.87～112.03円の範囲で推移した。3月7日111.67円、8日111.58円、11日110.95円、12日111.47円、13日111.29円で推移した。

そのような中で、3月11日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.2円の値上がり、軽油は同0.2円の値上がり、灯油は同4円の値上がり（18リットルベース）だった。ガソリン、軽油、灯油ともに4週連続の値上がりだった。この週（3月第2週）の原油コストは値上がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、据え置きと0.5円の値上げに分かれた。

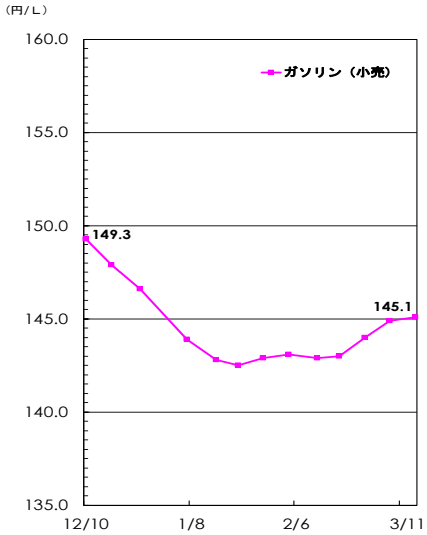
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	3/3 ～ 3/9	3,546	▼ -51	▼ －
需給	トッパー稼働率	（%）	〃	90.5	▼ -1.3	▼ －
需給	原油在庫量	（千kl）	3/9	12,106	▼ -227	▼ －
価格	中東産原油(TOCOM)	（$/bbl）	3/11	65.98	▲ 1.09	▲ 4.1
価格	WTI原油（NYMEX）	（$/bbl）	3/11	56.79	▲ 0.20	▼ -4.6
価格	原油ＣＩＦ単価	（$/bbl）	2月中旬	61.90	▼ -0.41	▼ -6.37
価格	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	42,594	▼ -282	▼ -4,351
価格	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	109.40	➡ 0.00	▼ -0.07
価格	外国為替ＴＴＳレート	（¥/$）	3/11	111.95	▲ 1.08	▼ -4.00



（単位：千kl、円/㌔）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		3/3 ～ 3/9	1,013	▲ 23	▲ －
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	909	▲ 33	▲ －
	輸出		〃	54	▼ -102	▼ －
	在庫		3/9	1,638	▲ 50	▼ －
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	（RIM）	3/5 ～ 3/11	60.0	▲ 0.6	▲ 2.2
	先物 [期近物/終値]	（TOCOM/東京湾）	3/5 ～ 3/11	56.6	▲ 1.6	▲ 1.5
		（TOCOM/中部）	3/11	59.5	▲ 0.5	▲ 3.5
	小売 [週動向]	（資エ庁公表）	3/11	145.1	▲ 0.2	▲ 1.3

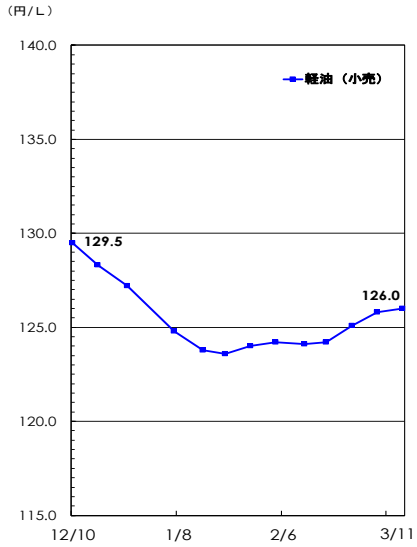
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㌔）

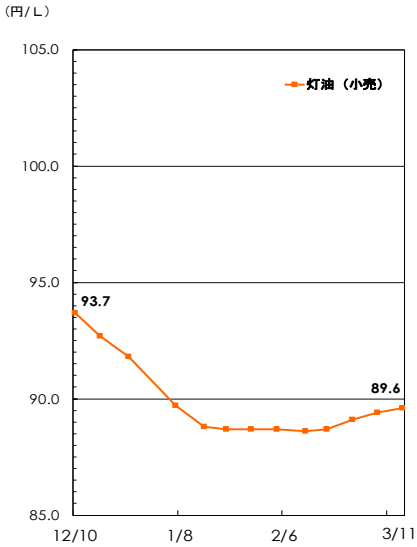
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		3/3 ～ 3/9	833	▼ -92	▲ －
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	639	▼ -25	▲ －
	輸出		〃	172	▼ -60	▼ －
	在庫		3/9	1,531	▲ 21	▲ －
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	（RIM）	3/5 ～ 3/11	63.4	▼ -0.1	▲ 3.8
	先物 [期近物/終値]	（TOCOM/東京湾）	3/5 ～ 3/11	64.8	▲ 0.8	▲ 2.8
		（TOCOM/中部）	3/11	－	－	－
	小売 [週動向]	（資エ庁公表）	3/11	126.0	▲ 0.2	▲ 3.7

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/㌔）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		3/3 ～ 3/9	285	▼ -100	▼ －
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	383	▲ 55	▲ －
	輸出		〃	0	➡ 0	➡ －
	在庫		3/9	1,498	▼ -98	▲ －
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	（RIM）	3/5 ～ 3/11	62.6	➡ 0.0	▼ -0.5
	先物 [期近物/終値]	（TOCOM/東京湾）	3/5 ～ 3/11	62.1	▲ 0.5	▲ 1.8
		（TOCOM/中部）	3/11	63.0	▲ 4.0	▲ 2.0
	小売 [週動向]	（資エ庁公表）	3/11	89.6	▲ 0.2	▲ 1.5



■ 関連情報

1　海外/原油

3月13日のNYMEX市場WTI原油は、OPECと主要産油国による協調減産が順調に進む中、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油在庫が前週比390万バレル減と市場予想（前週比270万バレル増）に反して取り崩しになったこと、ガソリン在庫も460万バレル減と市場予想（同250万バレル減）を大きく上回る取り崩しであったこと、さらに、EIAの短期見通しで、2019年の米国産油量の伸びを前回見通しの145万b/dから135万b/dに下方修正したことから続伸、昨年11月18日以来4ヵ月ぶりの高値を付けた。4月限終値は前日比1.39ドル高の58.26ドル。5月限の終値は前日比1.39ドル安の58.59ドルだった。

EIAによると、3月11日時点のガソリンの小売価格は、前週比4.9セント値上がりの1ガロン2.471ドル（73.0円/㍑）、ディーゼルは同0.3セント値上がりの3.079ドル（90.9円/㍑）となった。ガソリンは5週連続の値上がり、ディーゼルは4週連続の値上がりだった。

2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、平成31年3月3日～3月9日に休止したトッパー能力は9.9万バレル/日で、前週に対して9.9万バレル/日増加した（全処理能力は351.9万バレル/日）。原油処理量は354.6万klと、前週に比べ5.1万kl減少。前年に対しては18.2万klの減少。トッパー稼働率は90.5%と前週に対して1.3ポイントの減少、前年に対しては4.7ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、ジェット、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/2.3%増、ジェット/8.9%増、灯油/26.0%減、軽油/10.0%減、A重油/12.1%減、C重油/4.8%増。今週のC重油の輸入は0.7万kl（前週比3.2万kl減）。軽油の輸出は17.2万kl（前週比6.0万kl減）。

出荷（輸入分を除く）は、前週比ではガソリン、灯油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではガソリン、灯油、軽油が増加となり、その他の油種で減少となった。

ガソリンの出荷は90.9万 kl（対前週3.8%増）と前週比で2週振りで増加となり、10週連続で100万klを下回った。ジェット2.5万kl（対前週58.3%減）、灯油38.3万kl（対前週16.6%増）、軽油63.9万kl（対前週3.7%減）、A重油23.0万kl（対前週10.3%減）、C重油22.0万kl（対前週11.8%増）。

（単位：千KL）

	今週 (3/3 ~ 3/9)	前週 (2/24 ~ 3/2)	前週比	
ガソリン	909	876	▲ 33	(4%)
ジェット燃料	25	60	▼ -35	(-58%)
灯油	383	328	▲ 55	(17%)
軽油	639	664	▼ -25	(-4%)
A重油	230	256	▼ -26	(-10%)
C重油	220	197	▲ 23	(12%)
合　計	2,406	2,381	▲ 25	(1%)

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

2　国内/製品需給　（2）在庫

3月9日時点の在庫は、灯油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはガソリンで取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは163.8万kl、前週差5.0万kl増。前年に対しては6.0万kl少ない。

灯油は149.8万kl、前週差9.8万kl減。前年に対しては15.5万kl多い。

軽油は153.1万kl、前週差2.1万kl増。前年に対しては33.3万kl多い。

A重油は79.8万kl、前週差0.8万kl増。前年に対しては13.2万kl多い。

C重油は197.9万kl、前週差2.0万kl増。前年に対しては5.8万kl多い。

（単位：千KL）

	今週 (3/9)	前週 (3/2)	前週比	
ガソリン	1,638	1,588	▲ 50	(3%)
ジェット燃料	790	702	▲ 88	(13%)
灯油	1,498	1,596	▼ -98	(-6%)
軽油	1,531	1,510	▲ 21	(1%)
A重油	798	790	▲ 8	(1%)
C重油	1,979	1,959	▲ 20	(1%)
合　計	8,234	8,145	▲ 89	(1.1%)

3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

3月5日から11日の原油価格は、前週比でやや値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、3月5日～11日の間、ガソリン113～114円台で値下がり、軽油63円台で値下がり、灯油62円台で値下がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン114～115円台で、緩やかに値下がり、軽油64～65円台でわずかに値下がり、灯油62～63円台でわずかに値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン110円台で値上がり、軽油64円台で横ばい、灯油61～62円台で値上がりして推移した。

次週の元売の卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに据え置きと0.5円の値上げに分かれた。

3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

今週の製品スポット市況は、陸上・灯油、陸上・軽油を除き、全油種・全取引で、前週平均と比べ値上がりした。

3月第3週（3/14～3/20）適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格（3/5～3/11千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値）は、前週比で、ガソリンは0.6円の値上がり、灯油は横ばい、軽油は0.1円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは0.1円の値上がり、灯油も0.7円の値上がり、軽油も0.5円の値上がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが1.6円の値上がり、灯油は0.5円の値上がり、軽油も0.8円の値上がりだった。

3月第3週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに据え置きと0.5円の値上げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

（RIM）　（単位：円/㍑）

[陸上ローリー 4地区平均]		今週　(3/5 ~ 3/11)	前週　(2/26 ~ 3/4)	前週比
スポット価格	レギュラー	60.0	59.4	▲ 0.6
	灯油	62.6	62.6	➡ 0.0
	軽油	63.4	63.5	▼ -0.1

（TOCOM）　（単位：円/㍑）

[期近物/終値] 〔平均〕		今週　(3/5 ~ 3/11)	前週　(2/26 ~ 3/4)	前週比
先物価格	レギュラー	56.6	55.0	▲ 1.6
	灯油	62.1	61.6	▲ 0.5
	軽油	64.8	64.0	▲ 0.8

※上記価格は税抜き価格

参考値　（3/5～3/11実績値）　（単位：円/㍑）

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.6	▲ 1.6	▲ 1.1
灯油	➡ 0.0	▲ 0.5	▲ 0.3
軽油	▼ -0.1	▲ 0.8	▲ 0.3
A重油	▲ 0.3		

（出所）現物：RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4　国内/製品小売価格

3月11日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円高の145.1円、軽油は同0.2円高の126.0円、灯油は18㍑ベースで同4円高の1,613円（1㍑ベースでは同0.2円高の89.6円）だった。ガソリン・軽油・灯油ともに4週連続の値上がりだった。都道府県別には、値上がりが33都府県、横ばいが4県、値下がりが10道府県だった。全国最安値は徳島県の138.3円（前週比0.3円高）、次が埼玉県の140.0円（同0.4円高）、最高値は長崎県の157.1円（同1.0円高）であった。最も値上がりしたのは1.4円高の群馬県（144.7円）、横ばいは高知県・滋賀県・福島県・富山県の4県、最も値下がりしたのは1.0円安の北海道（145.4円）だった。

先週の原油コストは値下がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに据え置きとなった。

今週は、原油価格が値上がりし、為替レートもわずかに円安で、原油コストは値上がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに据え置きと0.5円の値上げに分かれた。次週（3月18日）のガソリン・灯油の小売価格は小幅な値上がりが予想される。

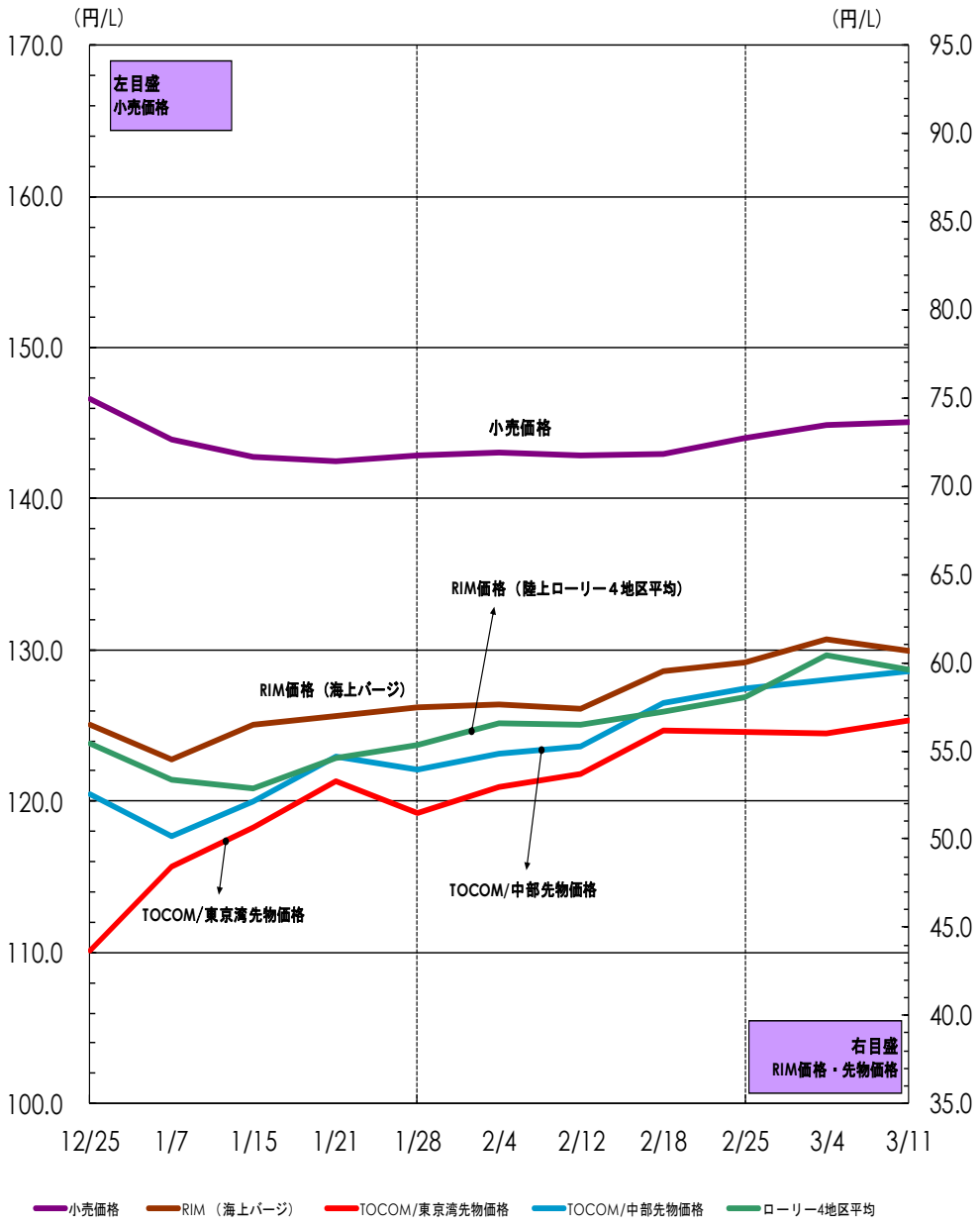
（単位：円/㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(3/11)	前週　(3/4)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	145.1	144.9	▲ 0.2	08/8/4	185.1
	灯油	89.6	89.4	▲ 0.2	08/8/11	132.1
	軽油	126.0	125.8	▲ 0.2	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/12/25　～　2019/3/11)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2018第48号）の公表は、3/22（金）14:00 です。

「セルフSS出店状況」（平成30年9月末現在）は、12月19日（水）14：00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。